

「リヤカー 都会で復権」

9月5日の産経新聞の2面に、面白い記事がありました。

「リヤカー 都会で復権」エコ、駐車難追い風

こんな記事が出ています。ご紹介します。

(記事より抜粋)

都心のオフィス街では、リヤカーを引いた電動アシスト自転車で疾走する宅配業者の姿が目立つ。背景には駐車監視員制度で駐車場が少ない都心でのトラック輸送が難しくなったことや、エコブームで自転車が見直されてきたことがある。

東京・大手町のオフィス街を疾走する運送会社の電動アシスト自転車。

後ろについているのは、両側に小さな車輪が付いたリヤカーだ。荷物を詰めた箱が載っている。

(途中省略)

消え行く運命と思われたリヤカーに再び光を当てたのは、平成18年に始まった駐車監視員制度とエコブームだった。

先駆者といえるのが、ヤマト運輸だ。それまでは台車で配達していたが、長距離を運ぶ際や荷物が多い場合には不向き。

そこで、14年に電動アシスト自転車にリヤカーを組み合わせた「新スリター」を導入した。

排ガスが少ないエコ効果に加え、「自転車なので発進時などに大きな交通事故を起こす危険が少ない。ドライバーの精神的負担も軽くなった」と意外な効果もあった。

「駐車場所を見つけるのが難しい都会でも機動力を発揮でき、荷物も多く積める」と好評で、19年の約800台から今年3月末には約1700台と倍以上に増えた。

今年に入って、同様のリヤカー付き電動アシスト自転車を導入した業者もある。宅配業者「エコ宅配」は「まだ全国で数十台が走るだけだが、渋滞に巻き込まれず小回りが利くのがよい」と今後も導入を進める考えた。

さて、皆さん。

この記事を読んでどのようなことを感じましたか？

又、それを自社や自分のビジネスにどう生かすか？

…そこがポイントですね。

我が家の都会から外れた(大規模)マンションでも、毎朝、台車でヤマト運輸が配達しております。お中元の時期や年末などいつも台車を押して、ウロウロしておりました。

<コメント>

リヤカーという「古いもの」と電動アシスト自転車という「新しいもの」との統合。

それによって、お互いの良いものを活かしながら「新しい価値」を創造する。

…これが本当の創造です。

外部環境の変化(駐車監視員制度とエコブーム)に新技術(イノベーション)の組み合わせ。

…まさにこれがクロスSWOT(経営でいう環境分析からビジネスの可能性を探る方法の一つ)。

外部環境の「機会」に内部環境の自社の「強み」を組み合わせると

…「最大のビジネスチャンス」が生まれる！

それにしても、リヤカーと電動アシスト自転車の組み合わせ。

グッド、アイデアですね。…感心いたしました！